

公益社団法人日本地震学会 2025 年度第 3 回理事会議事録

1. 日 時 2025 年 9 月 16 日（火） 13：30～17：00
2. 場 所 Zoom を利用したビデオ会議により開催
議長の所在：京都大学大学院理学研究科 京都府京都市左京区北白川追分町
議事録作成者の所在：日本地震学会事務局 埼玉県さいたま市大宮区仲町
2-80-1 KS・Dio 205
3. 理事数 15 名
4. 出席者 理事 15 名，監事 3 名
 - ・理 事：久家慶子，浅野陽一，加藤愛太郎，加納靖之，篠原雅尚，武村俊介，土井恵治，
中原 恒，西田 究，馬場俊孝，廣瀬 仁，深畑幸俊，宮澤理稔，室谷智子，
八木勇治
 - ・監 事：植竹富一，鈴木善和，谷岡勇市郎
 - ・事務局：中西のぶ江，岡野美紀子

5. 審議事項

議長久家慶子は，理事 15 名及び監事 3 名出席のもとに理事会を開催した．出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり適時的確な意思表示が互いにできる仕組みを確認後に，以下の議案について審議に入った．

第 1 号議案 選挙管理委員会の設置について

宮澤常務理事より，今年度行われる代議員選挙の選挙管理委員会の設置および委員の選任について提案された．審議の結果，選挙管理委員会の設置を承認し，提案された選挙管理委員候補者 5 名を選挙管理委員として選任することとした．

第 2 号議案 事務局職員俸給月額表の改定および賞与の見直しについて

宮澤常務理事より，人事院給与勧告に基づいて，給与規定に定められた俸給月額表及び賞与の月数の見直しを行うことが提案された．審議の結果，原案の通り俸給月額表，賞与の月数の見直しおよび給与規定の改定を承認し，本年 4 月に遡及して適用することとした．

第 3 号議案 入会承認について

事務局から，入会申請者の承認に関する件について諮られ，審議の結果，正会員に申し込みのあった 62 名（内学生 48 名）の入会を承認した．また，提出された学生会費適用申請書を承認した．

6. 報告事項

業務執行理事及び事務局より報告が行われた．

1. 事務局より，正会員 2 名（内学生 1 名）の退会届が提出されたとの報告があった．

2. 深畑理事（地震編集担当）より提出された資料に基づき、報告が行われた。地震（学術論文部）の編集状況について、冊子体 7 月号に 1 編の論文を掲載、9 月号に日向灘地震特集号 6 編を含む 8 編の論文掲載すること、11 月以降の編集状況について報告された。その他、「地震」編集委員会委員の解任について、経緯と手続きが報告された。なお、委員の解任については、委員の申し出による手続きであったことも併せて報告された。
3. 武村理事（学会情報誌編集担当）より、業務執行報告が行われた。『地震（ニュースレター部）』及び定期メールニュースの発行を滞りなく行っていること、記事アーカイブで書評をまとめる作業を実施中であることが報告された。
4. 西田理事（大会・企画担当）より業務執行報告が行われた。2025 年 9 月 4 日に委員会を開催し、2025 年度秋季大会のプログラム編成および準備状況、2026 年度秋季大会及び一般公開セミナーの準備状況、JpGU2026 のセッション提案について報告された。JpGU2026 では口頭発表の確保のため、セッションを統合（「地震予知・予測」と「地震観測・処理システム」と統合し、「地震学一般」とする）したこと、言語の選択はコンビーナに委ねることとし、英語セッションの受け入れとして「地震一般（全般）」は英語セッションとすることを検討したとの報告があった。JpGU 大会における発表言語の英語対応については、今後も検討するののかとの質問があり、現在は 2026 年大会を対象に対応しているとの回答があった。
5. 廣瀬理事（欧文誌運営担当）より、業務執行報告が行われた。EPS 誌運営委員会の開催、IAVCEI2025（6 月 29 日～7 月 4 日、ジュネーブ）、AOGS2025（7 月 27 日～8 月 1 日、シンガポール）での広報活動について報告された。
6. 中原理事（強震動担当）より業務執行報告が行われた。2025 年 10 月 19 日に開催予定である第 45 回強震動研究会では、応用地質株式会社から井上雄介氏を講師に迎え、講演題目：「海底微動アレイ探査システムの開発と適用」として講演いただく予定であること、2025 年 12 月 2 日に開催予定である「強震動予測－その基礎と応用」第 24 回講習会の準備状況および非会員の参加費の改定について報告された。
7. 馬場理事（災害調査担当）より業務執行報告が行われた。公益社団法人日本地震工学会が管理する 6 学会災害調査等積立金規程の改定について報告された。改定理由は基金の性質から使用にあたり迅速性が求められることから、今回の改定において基金の執行の条件を 6 学会の会長承認から、幹事学会（日本地震工学会）理事会での承認に変更し、取り崩し手続きを行うとともに他の 5 学会に報告することとした。その他、ぼうさいこくたい 2025 in 新潟での地震学会セッションの実施状況について

て報告があった。参加者は現地会場 30 名、オンライン配信を含む事前申し込みは 50 名であったこと、会場に用意した資料は現地参加者も含めて 130 部配布したことが報告された。

8. 久家会長から国際委員会の活動について報告された。2025 年 7 月 22 日に委員会を開催したこと、2026 年 4 月 25 日～30 日にウズベキスタン・タシケントで開催予定の The 16th General Assembly of the Asian Seismological Commission (ASC) の会員周知について、2026SSA（パサデナ開催）の共同セッション等提案募集に関して 7 月のメールニュースでの呼びかけに会員からの申し出はなかったことが報告された。なお、共同セッションについては加藤理事から現在セッションを準備中であり、国際委員会では対応いただければ地震学会の共同セッションとしたいとの提案があり、対応することとした。
9. 室谷副会長（ダイバーシティ推進担当）より、業務執行報告が行われた。JpGU2025 託児保育利用一部補助事業について申請がなかったこと、2025 年度秋季大会託児室の準備状況について報告された。JpGU における託児保育利用一部補助事業については、大会本体の託児保育利用補助が継続的に行われていることから、やめてもよいのではないかとの意見があり、JpGU での託児保育利用補助の状況を見ながら次年度の補助事業の実施について検討を行うこととした。
10. 加藤副会長（連絡会議担当）より業務執行報告が行われた。2025 年 7 月 16 日に連絡会議を開催し、2025 年 5 月 16 日に開催されたオンライン談話会および 2025 年 7 月 5 日に開催された特別シンポジウムの実施報告、今後のオンライン談話会の予定、SNS による広報活動は 8 月末からポストを開始していること、nfml の運用状況、モノグラフ 8 号の原稿募集について、次回の連絡会議開催予定について報告された。
11. 加納理事（学校教育担当）より業務執行報告が行われた。2025 年 8 月 19 日～20 日に宮城県くりこま高原周辺で開催した教員サマースクールの実施報告があった。平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震をテーマとし、鈴木比奈子氏（専修大学）、高橋尚志氏（東北大学）を講師に迎え、参加者は 13 名であったことが報告された。
12. 加納理事（普及行事担当）より業務執行報告が行われた。2025 年 8 月 5 日～6 日に長野県木曽町周辺で「御嶽山はなぜ大きいのか？」をテーマに開催した 2025 年度地震火山地質こどもサマースクールの実施報告があった。講師に土井恵治氏（土佐清水ジオパーク推進協議会）ほか 6 名を迎え、参加者は 37 名であった。また今後の予定として 2026 年度は宮城県気仙沼市での開催が決定したこと、2027 年度以降の開催地は公募中であることが報告された。

13. 篠原理事（広報担当）より業務報告が行われた。2025 年 8 月 27 日に委員会を開催し、学会への質問が 6 月以降ないことについて議論を行ったこと、記者懇談会の準備状況、なみふるの出版状況、なみふるメーリングリストは秋季大会終了後に新規メーリングリストに切替予定であることが報告された。
14. 土井理事（ジオパーク支援担当）より、業務執行報告が行われた。2025 年 9 月 27 日～28 日に開催される日本ジオパーク全国大会十勝大会で委員会活動を発表予定であることが報告された。
15. 加納理事より地学オリンピックで発行される参加者向けパンフレット「わくわく未来ガイド」への学会広告案が提示され、修正点や良いアイデアがあれば連絡してほしいとの説明があった。また学生向けの情報提供として各機関（大学・研究機関等）の一般公開情報をまとめた WEB ページに 2025 年度の情報が掲載されていないことについて指摘があり、担当を確認することとした。

7. 意見交換

以下の意見交換があった。

1. 久家会長より、将来構想検討 WG の検討状況について報告資料が提示された。行動計画 2012 の実施状況の評価について意見交換が行われ、地震予知の取り扱い、「等身大」の表現、行動計画の見直しのスパン、地震学の現状とサイエンスとしての期待感の記載などについて意見が交わされた。理事会で挙げられた意見を WG へ伝え、今後の評価や行動計画 2012 の改定に反映する。また、将来構想検討 WG による秋季大会での会員意見交換会について、WG ではグループワーク形式としたいとの意見があるとの報告があった。会員意見交換会で併せて議論することも検討してきた財政の問題をどのように扱うかの意見交換が行われ、学会財政の現状と物価上昇を踏まえた会費値上げ検討状況について短い説明を行えるよう、会計担当理事が準備を進めることとした。
2. 久家会長より新規常置委員会「財務委員会」の来年度からの設置について提案があり、意見交換が行われた。会計担当理事経験者や現会計担当理事からも賛成の意見があり、設置に向けて準備を進めることとした。
3. 事務局より、第 1 回理事会から検討していた外部監事および外部理事の選定に関する規則案について鈴木監事からの意見が提示された。規則を定めるか、従前の手続きに倣うか等の意見交換があり、鈴木監事からの意見の通り規則案に記載された事項は定款に定められているため、規則を制定せず、従前の外部監事候補の選定方法に倣い、外部理事候補者を理事会で選定することとした。

